

経済・金融 フラッシュ

6月マネー統計： 銀行貸出の減少に歯止めはかからず

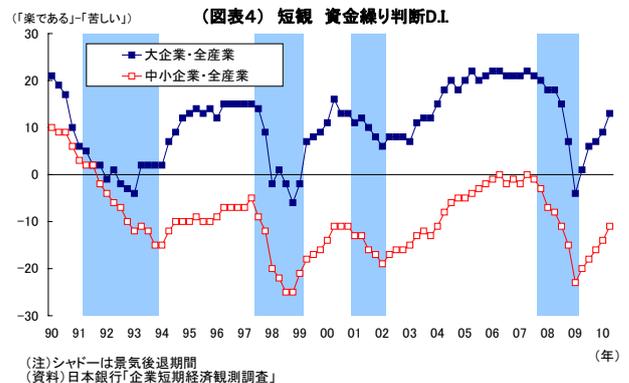
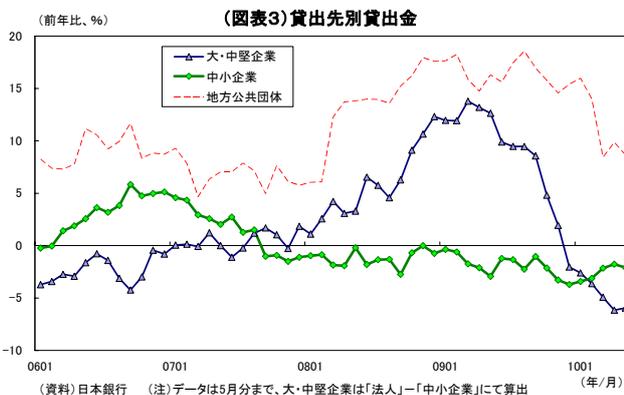
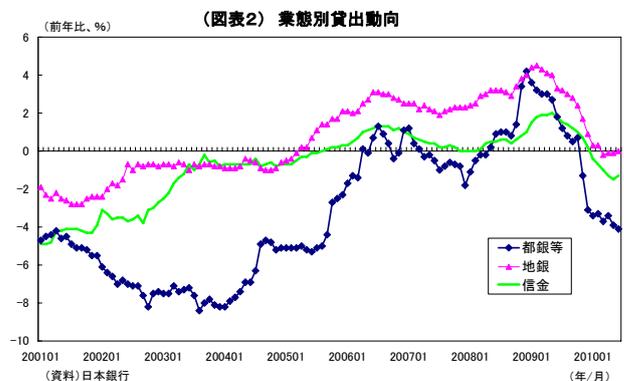
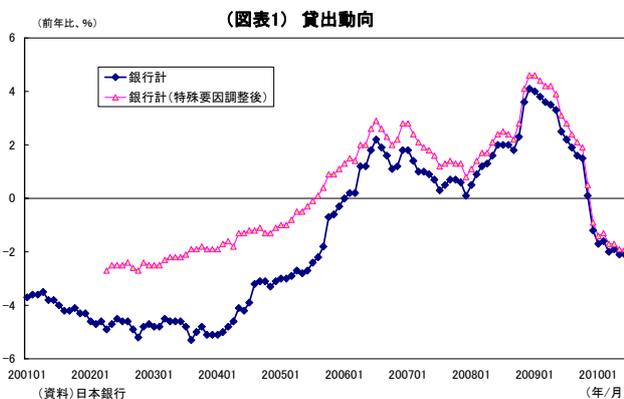
経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志

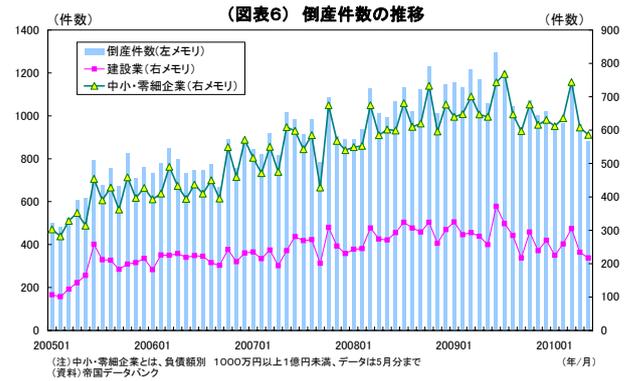
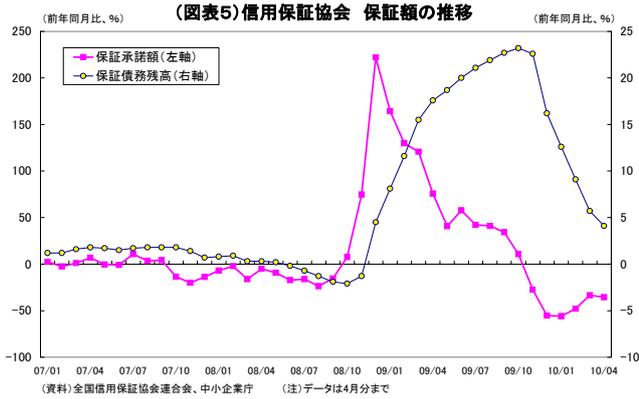
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

1. 貸出動向：7ヶ月連続の前年割れ

日銀が発表した貸出・資金吸収動向等によると、6月の銀行総貸出(平残)の前年同月比伸び率は前月と同じく▲2.1%と、7ヶ月連続の前年割れとなった。設備資金など企業の資金需要の低迷が未だ続いていることから、貸出残高(平残 394 兆円)の減少に歯止めはかかっていない(図表 1,2)。

なお、金融庁の発表した2010年3月末までの「中小企業金融円滑化法」の実施状況によると、銀行では法施行以降4ヶ月で返済猶予など7.3兆円の貸付条件変更が実施された。これは中小企業向け貸出残高の4%に相当する。審査中などを除く実行率は98%と極めて高く、銀行の前向きな姿勢がうかがわれる。これが最近の中小企業の倒産件数減少や資金繰りの改善に一部繋がっているとみられるが、中小企業向け貸出残高を押し上げるまでには今のところ至っていない(図表 3~7)。





(図表7) 中小企業円滑化法に基く貸付条件変更等の状況(～09/3末)

(億円)

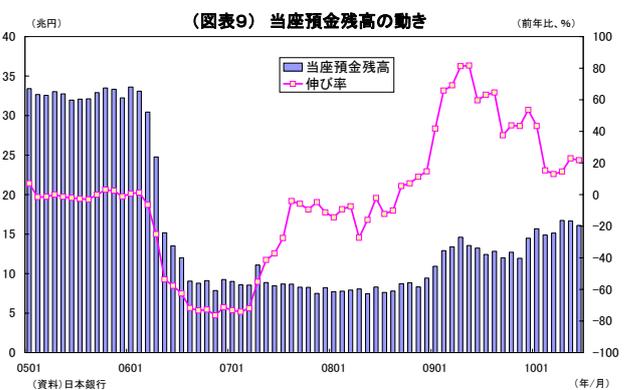
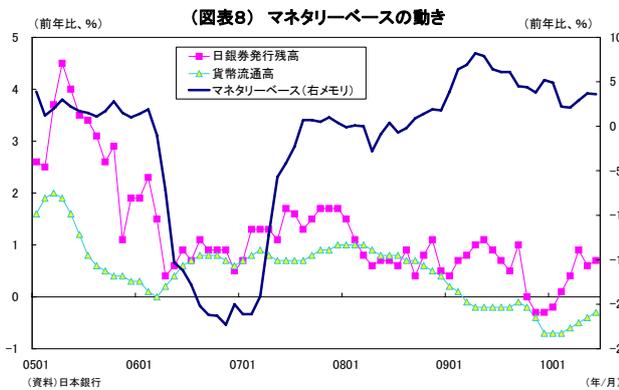
	申込み	実行	審査中	謝絶・ 取下げ	実行率
都銀等	31,787	24,453	5,986	1,346	97.5%
地域銀行	59,114	47,769	9,156	2,184	98.2%
その他銀行	802	477	277	47	97.0%
信用金庫ほか	38,179	29,587	7,066	1,509	98.7%
合計	129,882	102,286	22,485	5,086	98.3%
(うち銀行計)	91,703	72,699	15,419	3,577	98.0%

(資料) 金融庁 (注) 実行率は、審査中・取下げを除く件数ベース

2. マネタリーベース：緩和姿勢は緩まず

日銀による資金供給量を示す6月のマネタリーベースは、前年同月比 3.6%増となった。前月の同 3.7%からはわずかに低下したが、前年比プラスは 22 ヶ月連続。3月に資金枠を拡大した新型オペによる供給などが増えている。

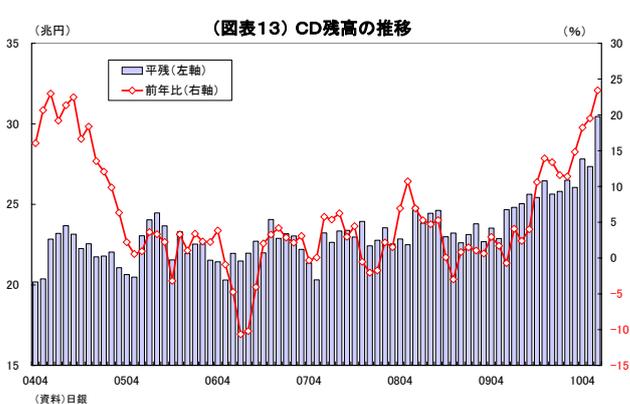
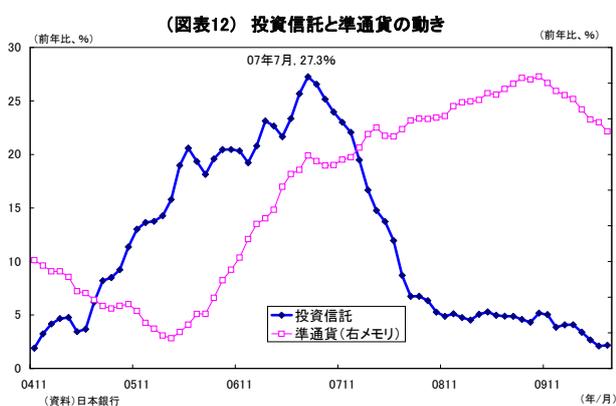
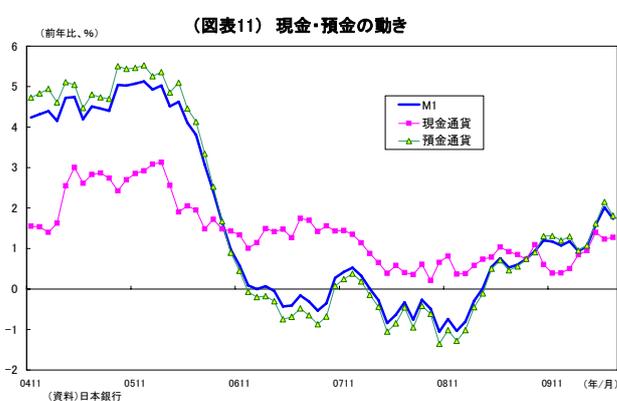
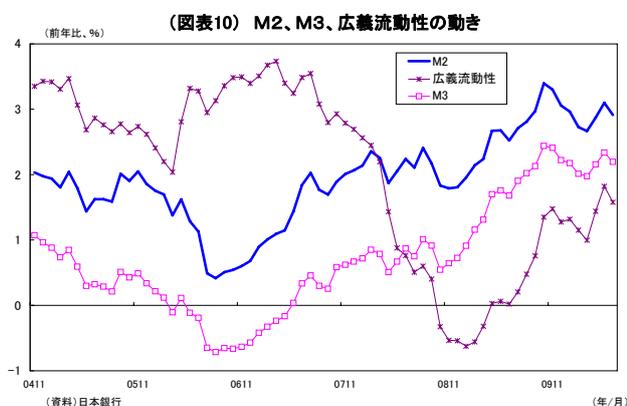
デフレや財政政策の手詰まり感を背景に、日銀の緩和姿勢は今後も当面維持されるとみられることから、マネタリーベース残高は引き続き高い水準で推移していこう(図表 8,9)。



3. マネーストック： 譲渡性預金への流入が顕著

通貨供給量の代表的指標である6月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年同月比2.9%増（前月は3.1%増）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.2%増（前月は2.3%増）、M3に投信や外債などを含めた広義流動性は同1.6%増（前月は1.8%増）と、それぞれ前月から伸びがやや鈍化したものの、高い伸びが続いている（図表10）。

なお、従来高い伸びが続いていた準通貨（定期預金など）の伸びが鈍化傾向になっており、流動性の高い預金通貨（普通・当座預金）の伸びがこれを上回る状況が前月から続いている。また、CD（譲渡性預金）の伸び率が前年比23.4%に達し、ここ数ヶ月で大きく拡大している。譲渡性預金は一般に最低預入金額が1000～5000万円と高く、主に法人が短資運用などに利用する。企業収益が回復する一方で、投資需要はまだ鈍く、一部企業の手元資金が流動性の高い預金に滞留している状況がうかがわれる（図表11～13）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。